8月 27 日（木曜日）「漁師たちの召命」

【新改訳 2017】

マルコ　1.16-20

「ガラリヤ湖のほとりを通られると、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのをご覧になった。‥‥イエスは彼らに言われた。『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。』」（16、17 節）

主の招きのことばに、彼らはすぐに網を置いて従いました。続いて、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネも加えられています。ルカは、このことは 5 章 10,11 節で簡単にしか書いていませんので、マルコを引用しました。

主イエスは、この時からご自分の福音の宣教のために人間を用いる準備をされたのです。それにしても、主の話術はなんと巧みなことでしょう。魚をとる漁師に向かって、「人をとる漁師にしてあげる」とは。この後、さらに弟子づくりが進められていきました。不思議にも主は、「無学な、普通の人たち」（使徒 4.13）を最初に選ばれたのでした。

主は、今も、主に信頼して従う奉仕者を求めておられま

す。あなたはどう応えるでしょうか。心のうちに示されながらも、拒み続けてはいないでしょうか。

～祈り～

主よ。救霊のための働き人が少なすぎます。どうか、魂の収穫のために更に働き人を多く起こしてください。示された人が従えますように。

【学びのために】

ガラリヤ湖:ガリラヤ地方にある湖。キネレテの海（民数 34.11）ゲネサレ湖（ルカ 5.1）テベリヤの湖（ヨハネ 21.1）などとも呼ばれる。キリストの活躍の北の舞台とも言えます。弟子たちもこの湖の漁師でした。長さ 21 キロ、幅は 12 キロ。